

2016 与謝野町・アベリスツイス交流事業報告

企画財政課財政係主任 渡邊稔之

1. はじめに

第 2 次世界大戦時に日本軍の捕虜となり、大江山ニッケル鉱山で働かされていたフランク・エバンスさんが、1984 年に加悦町を訪れたことをきっかけに始まったウェールズ・アベリスツイスとの交流事業ですが、1992 年にお互いの高校生の相互派遣を始めてから、今回で 12 回目の高校生派遣となり、与謝野町からは通算で 70 名が派遣されました。

私自身、アベリスツイスとの交流事業に全く関わったことがなかったことから、一からこの交流事業に関わり取り組むことに少し不安を感じていましたが、私が中学生の、まさに高校生の相互派遣が始まった 1992 年に、アベリスツイスから二人の学生が加悦中学校を訪れたことを思い出し、ほんの少しではありますが、私自身もこの交流事業に関わっていることに気づきました。

中学時代のその日から 24 年もの月日が流れ、今もなおこの交流事業は多くの方々の努力と熱意により続いてきたことに、あらためて驚きを感じています。なぜ、長い年月を経ても変わらぬ友情で 2 つの町が繋がっているのか、意欲溢れる高校生たちを無事に連れて帰ってくるという大きな使命とともに、その理由が知りたくて、今回のアベリスツイス訪問団の一員としてアベリスツイスを訪れてみたいと思いました。

2. 訪問団紹介

今回のアベリスツイス交流事業訪問団の紹介をします。

私は、今回、アベリスツイス交流事業訪問団の団長という立場で随行することになりました。私の現在の職務は企画財政課財政係で地方交付税や決算統計といった事務が主です。今回のアベリスツイス交流事業は少々畑違いではありますが、旧加悦町時代から続く大切な事業であり、関わるのがなくても、実施状況などを課内で頻繁に耳にする事業です。この大切な事業に今回関わることになり大きな責任を感じました。アベリスツイスの知識も乏しく、まして海外への渡航経験のない状況でしたが、まずは無事に行き、無事に帰るといった最低限のことを果たし、なおかつ現地の方々とも交流し、今後もこの交流事業に関わっていきたいという思いでいました。

☆派遣高校生

- ◎内田大雅さん（峰山高校 2 年生、加悦奥在住）
- ◎柴田和佳さん（宮津高校 2 年生、後野在住）
- ◎松田開智さん（加悦谷高校 2 年生、石川在住）
- ◎堀江真衣さん（峰山高校 1 年生、岩滝在住）

◎三田暁さん（宮津高校 1 年生、加悦在住）

◎森本このみさん（宮津高校 1 年生、明石在住）

高校生は以上の 6 名です。さらに通訳として、前回の交流事業でも通訳を務められた谷原春加さん（企画財政課嘱託職員）にも随行いただき、総勢 8 名が訪問団として構成されました。

3. 交流事業まで

交流事業に臨むまでに、事前研修会を実施しています。この交流事業が行われてきた経過や、交流事業に臨む心得などを学び、与謝野町代表として平和と友好をテーマにしたこの交流事業の重要性を、多くの人々に伝えるという使命を理解して臨んでいただくのが目的です。

今回の交流事業は、現地の友好協会の会長がアウエルさんからゲナルトさんに代わり、従来とは違う体制で受け入れていただくことになりました。それが原因かわかりませんが、連絡がスムーズにいかないことも多々あったようでした。

【第 1 回事前研修会】

6 月 29 日（水）19 時 45 分～21 時 於：岩滝保健センター

初回ということで、親御さん同席のもと交流事業の説明を行いました。

内容：①事業の概要説明

⇒「次代を担う高校生が、アベリスツイスとの交流に至る与謝野町の歴史的背景を理解するとともに、ホストファミリーや現地の関係者との交流を通じてウェールズの文化や言語、生活習慣を学び、国際感覚を有する人材の育成を図る目的で行う。」ことを確認。

②スケジュールの確認

⇒8 月 12 日出発、8 月 23 日帰国のスケジュール確認。

③各種手続き書類準備について

⇒パスポートの準備、海外傷害保険や電圧の違い、町補助金についての説明をしました。



内田大雅さん



柴田和佳さん



堀江真衣さん



三田暁さん



森本このみさん

第1回事前研修の後、7月6日に現地友好協会から、高校生を受け入れるホストファミリーの確保ができなくなったため延期したい旨の連絡がありました。9月以降に新入生を迎えた新学期が始まることから、あらためてホストファミリーを募集し、交流事業を実施したいとのことで、10月か11月に延期となる見込みとなりました。そのため7月15日（金）に予定していた第2回事前研修会は取りやめて延期のついでの説明会となりました。

【交流事業延期説明会】

7月15日（金）19時15分～19時50分 於：岩滝保健センター

親御さん同席のもと、延期についての説明と参加の意思確認を行いました。夏休みの実施であることから参加を希望された経緯もあり、夏休み以外の実施で参加いただけるのかの確認になりました。

【第2回事前研修会】

9月26日（月）19時15分～21時30分 於：岩滝保健センター

延期説明会から約2か月の期間が空きましたが、こちらの都合も伝えたくて、10月23日～11月3日（現地滞在は10月24日夕方～11月2日早朝）の行程で先方との調整ができました。

内容：①海外渡航準備の説明

②行程の変更、費用、各種手続き書類の確認

③派遣団員を知ろう

⇒団員の自己紹介

④アベリスツイスとの交流の歩み

⇒フランク・エバンス氏の半生を中心に、交流のきっかけ、歩みの説明。

⑤歓迎会での余興について

⇒現地歓迎会の際に、派遣高校生が披露する余興について相談した。

事業が延期になったことにより、タイトなスケジュールで今後も事前研修を行っていくことになりました。次回研修会までに、何を目的にするのか、ウェールズとは？アベリスツイスとは？等をそれぞれで勉強してくることとしました。



交流の歴史を学びました



松田開智さん

【第3回事前研修会】

10月8日（土）9時～12時 於：慰霊碑、元気館

第3回は大江山運動公園内にある慰霊碑にて、慰霊と誓いの催事を行い、その後、場所を元気館に移して、訪問するイギリス、ウェールズ、アベリスツイスの勉強、前回訪問の内容、歓迎会の余興練習などを行いました。

内容：①慰霊と誓いの催事（与謝野アベリスツイス友好協会主催）

⇒与謝野アベリスツイス友好協会の主催で、慰霊と誓いの催事が行われ、訪問団も参列しました。山崎副会長が「誓いの言葉」を述べられ、フランク・エバンスさんの願いである永遠の平和と交流事業の成功を祈念し、献花しました。その後、ニッケル鉱山跡の三本煙突や日中友好協会の慰霊碑を訪れ、この地で起きた歴史を学びました。特に日中友好協会の慰霊碑においては西原顧問から熱心な説明をいただき、訪問団への激励の言葉もいただきました。

②イギリス、ウェールズ、アベリスツイス調査発表

⇒高校生が事前に調査したことを発表。その後、資料を使って簡単に説明、理解を深めました。

③前回（2014年度）のアベリスツイス訪問の様子

⇒前回は随行通訳として参加された谷原さんから、前回の様子を説明いただき、写真も見ながらイメージしてもらいました。

④歓迎会の余興について

⇒歓迎会での余興は男子2人がダンスを習っていることから、2人でダンスを松田さんが考えたダンスを内田さんが他のメンバーに教えました。また、ダンスと一緒に女子メンバーで書道パフォーマンスも行うことになりました。



慰霊碑の前で



2014年の様子を説明



余興の練習

【第4回事前研修会】

10月18日（火）19時15分～21時30分 於：与謝野町役場3階会議室

研修の心得、それぞれの研修テーマを決めるなど、交流事業に向けての最終準備の研修会となりました。この時点で、現地でのざっくりとしたスケジュールが示されました。

内容：①研修の心得

⇒資料を基に、与謝野町代表として研修に参加すること、両町の交流の発展と平和についてフランク・エバンスさんの思いに賛同し引き継いでいくこと等を心得として説明しました。

②研修テーマを決めよう

⇒これまでの事前研修を経て、どのようなテーマを決めて臨むのかを話し合いました。

(高校生たちの思い)

- ◎ 与謝野町代表として臨む使命感を感じた。アベリスツイスの人々とフランク・エバンスさんの思いを共有したい。いろんなことを伝え、吸収したい。
- ◎ フランク・エバンスさんの意思を理解し、日本や与謝野町のことも知ってもらいたい。「戦場に出会うことがあればお互いが銃を下すだろう。」という言葉に感動した。人々のきずなを大切に、積極的に取り組みたい。
- ◎ 与謝野町の代表であることを忘れず行動したい。自分から動きたい。平和であり続けるように、学んだことを人々に伝えたい。
- ◎ 与謝野町の代表として選ばれたことを自覚して行動したい。広い世界を見て視野を広げたい。言葉や文化の壁があるが努力して繋がりを作りたい。積極的に input-output したい！
- ◎ 与謝野町とアベリスツイスの伝統・歴史を吸収したい。異国の文化の違いを実感したい。
- ◎ ウェールズ・アベリスツイスのことを理解し、アベリスツイスの人々に与謝野町のことを伝え、後悔しない研修にしたい。両町の交流の架け橋になりたい。

③ 出発・帰国日のスケジュール

⇒ 10月23日(日) 17時に岩滝保健センター集合で出発式。マイクロバスで関西国際空港へ。11月3日(祝・木) 21時30分頃に岩滝保健センターに帰着予定。

④ その他

⇒ 荷物やパスポート、渡航の注意事項、現地での生活やお土産などについての説明。その後、歓迎会の余興の練習をして閉会しました。



出発前の最後の確認



余興も形になってきました



4. 交流事業

ここからは交流事業について、日程に沿って報告します。

受け入れ側のホストステューデントは、日本にはないハーフターム (Half Term) という学期休みの期間 (1週間程度) にあり、高校生達も随行員 (私と谷原さん) と離れて、多くの時間をホストステューデントと過ごしました。

全体を通してのウェールズとアベリスツイスの印象ですが、まず気候については、暖流の影響があるとは言

え、北海道より緯度が高い位置にあるとのことで、日本より少し季節が進んでいるようでした。ダウンジャケットを持っていきましたが、朝晩はこれで充分でした。日中はダウンジャケットを着ているとやや汗ばむこともありましたが、滞在中の天気はほぼ曇り。晴天と呼べるのは一日だけでしたが、小雨が降る程度で過ごしやすい天候でした。

アベリスツイスの町はカーディガン湾という大きな湾に面しており、建物が集中している海沿いのエリアは、日中は人の往来が多く、建設中の大きなスーパーマーケットがあるなど都会的な雰囲気がありました。高校生達も「思ったより都会！」という印象だったようです。町から主要道路を登っていけば、高台にアベリスツイス大学があり、朝夕は多くの学生が行き来する学生の町でもあります。そこからさらに郊外にできれば、なだらかな丘陵が重なる牧場地帯が広がり、日本では見たこともないようなおびただしい数の羊を見ることが出来ます。道路標識等は英語とウェールズ語が併記されており、信号機は駅前の一部に限られ、交差点に描かれたサークル（ラウンドアバウト）を車が進むという、慣れない日本人ではすぐに対応できそうな光景がありました。

出会う人々はみな明るく、ウェールズ語と英語の両方を話す人が多かったです。ラグビーとサッカーが盛んで、ラグビーの話をするに「日本もラグビー強いよね。」と嬉しそうに言ってくれます。2016年のサッカー欧州大会でウェールズ代表がベスト4に入った話は相当嬉しかったようで、「イングランドより上だよ！」と誇らしげでした。人々はとても親切で、拙い英語にも熱心に耳を傾けていただき、日本語が通じないことにストレスを感じるようなことはあまりありませんでした。このことは高校生達が積極的に交流できた要因のひとつであると言えます。

10月23日（日）

いよいよ交流事業のスタートです。交流の地アベリスツイスへは20時間を超える道のりであり、23日と24日は、ほぼ移動に費やすこととなりました。

① 訪問団出発式

17時、岩滝保健センター派遣団の出発式を行いました。出発にあたっては阿蘇海にうっすらと虹がかかり、これから両町の架け橋となる我々の決意を強くしました。

その後、マイクロバスに乗り関西国際空港へ出発しました。

② 関西国際空港～日本を離れて～

20時56分、関西国際空港に到着。搭乗手続き、両替（円⇒ポンド、当日の両替レート1ポンド137.02円：手数料込み）を終えて搭乗口へ。23時30分、エミレーツ航空EK317便にて関西国際空港発。経由地ドバイへのフライトになります。



関西国際空港の様子



- 61 - 現地で使用するポンドに両替

10月24日(月)

① 経由地ドバイ国際空港

現地時間 4 時 28 分、約 10 時間のフライトを経て経由地ドバイ国際空港に到着。気温 30℃、晴れ。

ドバイ国際空港では約 3 時間のトランジットとなりましたが、空港内で使える通貨は主にドルなので、手持ちのポンドでは買い物ができず、特に高校生はクレジットカードを持っていないので、待つみの 3 時間でした。ただ、空港ではフリーWiFiが使えるので、SNSなどで家族・友人に連絡をしていました。この時点で日本との時差は 5 時間です。

7 時 35 分にドバイ国際空港を出発しバーミンガム国際空港へ向かいました。



ドバイ国際空港に到着



空港内を電車で移動



待ち時間に記念撮影

② イギリス上陸～バーミンガム国際空港～

現地時間 12 時 11 分、バーミンガム国際空港に到着。気温 9℃、曇り。ドバイ国際空港から 7 時間を超えるフライトでした。

入国審査を経てイギリスに入国。入国審査は 8 名まとめて受けることができ、通訳の谷原さんから交流事業の概要などを説明してもらい、理解してもらいましたが、「親の同意書はあるのか」と聞かれ、最後には入管職員が直接高校生に「親御さんは今回の交流事業に参加することは承知しているのか」と聞き、それに答えると入国審査を通過することができました。留学などでトラブルの事例があるのか、親の同意ということを念入りに聞かれた印象でした。

その後 JTB の現地スタッフと合流し、その案内でモノレールに乗りバーミンガムインターナショナルステーションへ向かいました。この間、空港のフリーWiFiが使えるため、日本への連絡などをしていました。JTB スタッフからバーミンガム～アベリスツイスの往復切符（指定席）を受け取り、現地時間 14 時 9 分、バーミンガムインターナショナルステーション発の電車でアベリスツイスを目指しました。この時点で日本との時差は 8 時間（サマータイム期間のため。通常は 9 時間です）です。



バーミンガム国際空港に到着



JTB 現地スタッフと合流



バーミンガム国際駅にて



アベリスツイス行きの列車



車内の様子

③ 交流の地、アベリスツイスへ

現地時間 17 時 17 分、アベリスツイス駅に到着。小雨の中、現地友好協会会長ゲナルトさん、前会長アウエルさん・リラさん夫妻、ジェイクさん・キャロラインさん夫妻、クレディグさんにお迎えいただき、歓迎を受けました。とても友好的に迎えていただいたため、到着がせまり緊張気味だった私と高校生達はとても安心することができました。



アベリスツイス駅に到着

左がゲナルト会長、右がアウエルさん



自己紹介の様子

④ 生活の拠点となるステューデント・ヴィレッジへ

17 時 30 分、駅近くの駐車場で自己紹介を済ませ、ゲナルト会長が運転するミニバス（ゲナルト会長が校長を務めるペンウェディグ校のミニバス）にて、滞在中の宿舍・生活の拠点となるアベリスツイス大学のステューデント・ヴィレッジ（学生寮が建ち並ぶエリア）へと向かいました。

宿舍はステューデント・ヴィレッジにある No,26、No,27 の 2 つの寮をご用意いただきました（前回訪問時はステューデント・ヴィレッジの寮ではなく主要道路をはさんだ向こう側にある、大学エリアの寮）。自分たちだけで使用できることになっていました。



ミニバス



ステューデント・ヴィレッジに到着



↑ No,27

↑ No,26

その後、18時に学生食堂 TaMedDa で夕食を済ませました。TaMedDa は主要道路をはさんだ向こう側にある大学エリアにあり、徒歩で 10 分程度かかる距離にあります。19 時過ぎに解散し、明日に備えて就寝しました。少し早い就寝ですが、旅の疲れや時差の関係もあり部屋に着くや眠り込んでしまいました。



TameDa で夕食



夕食の様子



夕食（私はハンバーガー）

☆寮の様子（個室）



個室には勉強机とベッドとクローゼット

☆寮の様子（共有スペース）



充実したキッチン



トイレ、シャワー、洗面所は同じ場所に設置

WiFiを利用してLineやFacebookなどで日本と通信を試みましたが、接続できず、後日確認することになりました。

10月25日(火)

この日は10日間お世話になるホストステューデントとの初対面になりました。高校生たちにとっては新たな出会いに胸躍る1日となりました。

① 朝食

8時にTaMedDaで朝食。早朝出発となる11月2日を除いては、すべてTaMedDaでの朝食となります。基本的には朝食時にTaMedDaで昼食(パックランチ)を受け取り(これも現地友好協会支払い)、1日持っていくという流れでした。パックランチの中身は、大きなサンドイッチ、チップス、チョコレート、りんご、水です。

② ホストステューデントとの対面

8:50 グェナルト会長に迎えに来ていただき、ペンウェディグ校へ。ペンウェディグ校はsecondary schoolといって、12歳~18歳の生徒が通う学校で、今回派遣の高校生達と同じくらいの歳の生徒たちがホストステューデントとして参加いただきました。アウエルさんにご紹介いただき、図書室にてホストステューデントと初対面となり、高校生たちはやや緊張気味でしたが、ホストステューデントたちがフレンドリーに話しかけてくれたこともあり、緊張が解けて、さっそく楽しい会話を始めたようでした。ホストステューデントにはその場でアウエルさんからこの交流事業の経過などをウェールズ語で説明されました。高校生はホストステューデントに校内を案内してもらい、それぞれ外出。我々随員とは早くも別行動になりました。ホストステューデントはハーフターム(Half term)という1週間ほどの休みの期間なので、この週は平日の日中も一緒に過ごしてもらえました。

滞在中、高校生たちは、それぞれのホストファミリーと過ごすだけでなく、複数のホストファミリーたちと一緒に行動し、ホストファミリー間で順番を決めて家に招いてもらう等の対応をいただいていた。

☆ホストステューデントとの対面





アウエルさんから説明の様子



初日の交流の様子
※高校生提供

③ ウェールズの史跡を訪ねて

10 時、随行員はアウエルさんに連れられ、彼のお宅へ伺いました。そこからアウエルさんの奥さんリラさんに連れてもらい Llanerchaeron（バッキンガム宮殿の設計者である Jhon Nash が設計した屋敷。NationalTrust（国の文化財））へ行きました。古い屋敷や庭や農場などを見学し、古いウェールズの富裕層の暮らしぶりを体験することができました。日本ではこういった施設に来ると展示品に触れてはいけないかったり、部屋に立ち入れなかったりと制限があるのですが、ここでは展示物に自由に触れることができ、写真撮影なども自由にできました。国民の財産は、国民みんなで大切にするものであり、壊す・盗むということを前提に展示しているものではないのだと感心しました。



Llanerchaeron は地方の富裕層のお屋敷で、高価な調度品や美しいお庭等、見どころが多かったです

16 時、リラさんに送っていただき、そこから徒歩でアベリスツイスの町を散策。現地友好協会ケレディグさんの経営するお土産屋さん「モナリザ」に立ち寄る等、散策しました。アベリスツイス大学のステューデント・ヴァレッジは町中から主要道路を通過して 1km ほど坂を登らなければたどり着けず、帰るのはとても疲れました。

19 時にアウエルさんの家で夕食をごちそうになりました。

21 時、ステューデント・ヴァレッジに帰着。22 時に最後の高校生の帰着を確認し就寝しました。

高校生は 1 日目の日中からホストステューデントたちと自由に過ごすことができ、とても楽しいスタートになったようでした。



アベリスツイスの町並み



アウエルさんのお宅で夕食をいただきました。羊肉の煮込みがおいしかったです



10月26日(水)

この日は近隣の町 Machynlleth で毎週水曜日に開催されるマーケットに連れて行ってもらいました。Machynlleth はウェールズで初めて議会ができた町として紹介されました。また、ウェールズの全国ネットのテレビ局 S4C の取材を受ける一幕もあり、盛りだくさんの一日になりました。

① Machynlleth のマーケットへ

9時、グエナルト会長の運転で、近隣の町 Machynlleth へ、ホストステューデントと一緒に水曜日開催のマーケットへ。現地友好協会のジェイクさん・キャロラインさん夫妻（Machynlleth 在住）と合流し自由行動となりました。高校生はホストステューデントとともに買い物に、私と谷原さんはグエナルトさんと行動しました。



キャロラインさんにお世話になりました



Machynlleth の町並み



マーケットの様子



高校生たちの様子

② ウェールズの文化と歴史そしてテレビの取材

買い物を終えて、ウェールズ議会発祥の地である記念館にてウェールズ語を少し教わりました。その後、正午にアウエルさんが合流し、同じ建物で昼食をいただきました。伝統的なスープや、パン等をいただき、高校生達の口にもあったようでスープを何度もおかわりをしていました。



ウェールズ語を教わる



昼食の様子



Cawl (カール) という伝統的なスープ
野菜いっぱいです。

昼食後にウェールズの全国ネットのテレビ局である S4C から、交流事業についての取材がしたいとの申し出があり、内田さん、柴田さん、森本さんの 3 名（時間の都合もあり 3 名のみ）が個別にインタビューを受けました。この内容はその日の夜 9 時のニュースで放映されました。フランク・エバンスさんの加悦町訪問に始まるこの交流事業について、エバンスさんの資料がある National library にも行かれ、交流の歴史から取材されていたようでした。アウエルさんもインタビューを受けられたようで、そのために Machynlleth に来られていたようでした。



取材を受ける内田さん



取材を受ける柴田さん



取材を受ける森本さん



買い物の様子も取材

14 時に記念館にてウェールズの歴史について説明いただき、ハープの演奏を聴くなどウェールズの文化・歴史に触れることができた貴重な一日になりました。

16 時、ペンウェディグ校に帰着。高校生はホストファミリーの家へと向かいました。



ハープの演奏を聴き、ウェールズの歴史も教えていただきました

② 生活に必要な環境の確認

高校生と別れた後、ステューデント・ヴィレッジに帰り、生活に必要な環境の確認をしました。滞在時の生活に必要なものとして、日本への通信手段と衣服の洗濯について確認しました。

まず日本への通信手段ですが、連絡用にイギリス国内で使える携帯電話（リース）を持っているものの、安定したインターネット環境があれば、Line 等により日本との通信が可能なので、大学構内の WiFi の使用を考えましたが、谷原さんに大学へ確認いただいたところ、ステューデント・ヴィレッジでは WiFi 環境に不備があり、現在使用できない状況であるとのことでした。高校生はホストファミリーの家で WiFi に接続できたり、TaMedDa ではフリーWiFi が利用できるので、その間にご家族に連絡することになりました。Facebook の投稿で交流事業の様子を伝える約束だったので、私は N T T ドコモの海外通信サービスを利用してようやく滞在の様子を伝えることができました。

衣服の洗濯については滞在期間で 1～2 度は洗濯する必要があるため、コインランドリーを利用しなければなりません。コインランドリーは大学構内のものを利用することを考えましたが、常に施錠されたランドリー室を開錠するカードキーが必要で、大学に事情を説明して滞在期間のみカードキーをお借りすることができました。

この日、随行員は 19 時に友好協会のケレディグさん（こちらで言う町会議員でもあられます）の家で夕食をごちそうになりました。ウェールズは羊が多いですねと尋ねると、ウソかホントか「人口の 4 倍は羊がいる。」とのことでした。21 時 30 分頃にステューデント・ヴィレッジに帰着。高校生たちも 22 時には帰着し就寝しました。



ケレディグさんのお宅で夕食をいただきました。

10月27日（木）

この日は Tywyn という町で SL に乗り、Castel y Bere という古城へ連れて行っていただきました。この日から Glyn というペンウェディグ校の男子生徒も合流してくれました。

① 初めての洗濯

6 時 30 分、高校生と一緒に大学構内のコインランドリーで洗濯。ランドリー室は施錠されていて、開錠するにはカードキーが必要です。カードキーは前日に大学からお借りしました。洗濯は 2.3 ポンド、乾燥は 1.1 ポンドかかり、プリペイドカードのようなものを購入して洗濯機にある読み取り部分でカードをスキャンして使用します。洗濯に 20 分、乾燥に 50 分ほどかかり、洗剤を用意する必要があります。



洗濯機



乾燥機



早朝か就寝前しか洗濯できる機会がありません

② SLと古城

8時30分、Eirianさん（ペンウェディグ校の運転手さん）の運転とアウエルさんの案内でホストステューデント達とTywynへ。TywynはTalyllynという鉄道の起点となる駅がある町で、今もSLに乗ることが出来ます。お孫さんを連れたキャロラインさんも合流し、SLの博物館を見学したり、お土産を買ったりした後、SLに乗ってAbergynolwynという駅へ向かいました。SLはのどかな牧場の見える風景を車窓に写し、心地よいリズムとゆっくりとしたスピードで1時間ほど旅をしました。



初登場のGlyn（右）



SLに乗りました



自分たちがダンスしている動画を見せていました

11時、Abergynolwynの駅から移動し、Castel y Bereという古城へ向かいました。少しばかり山道を進むと、石を積み上げた砦のような壁や、建物があつたであろう場所には大きな柱の跡のようなものがあり、ウェールズ軍とイングランド軍の戦いの最前線であった時代の名残を感じることができました。アウエルさんやホストステューデントたちの説明・案内で城の歴史を学んだり、散策したあと、持参したランチを食べ、下山しました。その後、近くの教会に立ち寄り、聖書を買うために26マイルもの道のりを裸足で往復したという、Mary Jonesの逸話を聞いたり、お土産物屋に連れて行ってもらったりした後、16時にペンウェディグ校に到着。高校生はホストファミリーの家へと向かいました。



お城でランチ。寒かったです。



記念撮影



ホストステューデントが丁寧に解説



教会の様子

随行員は 18 時 30 分にアウエルさんのお家で夕食をごちそうになりました。そこでアバ・ダバ・ドゥーというアベリスツイスで造っているビールをごちそうになりました。とても飲みやすくおいしいビールでした。また、リラさんに昨日の Machynlleth で取材を受けたニュース映像を見せてもらいました。後ほど放送局からニュース映像の DVD をペンウェディグ校に送っていただき、持ち帰ることができました。

21 時過ぎにステューデント・ヴィレッジに帰着。高校生も 22 時には帰着しました。



アベリスツイス近郊で製造されているビール「アバ・ダバ・ドゥー」



取材のニュース映像



アウエルさんのお嬢さんが交流事業で加悦町に来られたときの写真。ちりめん街道です。

10月28日（金）

この日はアベリスツイスにある National Library とアベリスツイス大学を見学させていただき、夜は歓迎レセプションを開催していただくなど、長く充実した一日となりました。

① National Library

9 時 40 分に、ペンウェディグの副校長先生（女性）に迎えに来てもらい、車で 2～3 分のほどのアベリスツイスの町を見下ろす高台にある National Library へ送っていただきました。伝統と歴史を感じさせる外観に私も高校生たちも興味津々でした。アウエルさん・リラさん夫妻とホストステューデントも合流し、National Library の職員の案内で会議室のような部屋に通していただき、説明を受けました。

National Library はイギリスに 6 カ所ある国立図書館（資料館）のうちのひとつで、イギリスで発刊された本は 6 カ所すべてに 1 冊ずつ所有しており、毎週 4,000 冊ずつ増えていっているとのこと。収蔵スペースが少なくなると増築しなければならないなどの課題があるようです。また、会議室にはフランク・エバンスさんの遺した資料を用意していただいております、エバンスさんが作成したスクラップブックや戦時中の日記、

旧加悦町時代に交わした手紙などが大切に保管されていました。糸井会長も資料を閲覧するために National Library に来られたとアウエルさんから説明がありました。まさに交流事業の原点と呼べるような貴重な資料が、国立図書館で大切に保管されていることに感激しました。高校生たちもそれらを手に取り熱心に見るなど、交流事業の歴史に思いを馳せるひと時となりました。

その後 National Library の中を丁寧に案内していただきました。普段の見学案内では施設の 20% ほどしか見せてもらえないそうですが、今回は 80% ほど見せていただき、一部を除き館内の撮影もできました。火災が発生すると二酸化炭素が噴出され、火災から貴重な文献を守る設備や、過去から保管されている新聞など、その規模や設備に圧倒されました。



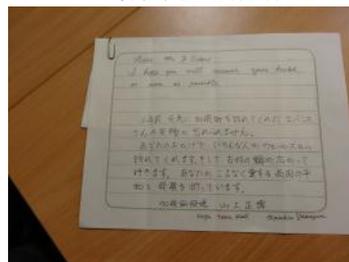
Narinal Library 外観



記念撮影



職員による説明



フランク・エバンスさんが寄贈された、加悦町との交流を物語る品々



保管庫の一つ（新聞）



手に取って見ることも



記念撮影②

② アベリスツイス大学

12 時、アベリスツイス大学散策を散策し、持参した昼食をとって、大学構内のアートセンター（商業施設のようなもの）で買い物などをしました。

13 時、1872 年にウェールズ初の大学として設立された、アベリスツイス大学を見学しました。まずは与謝野町を訪れたことのあるレイチェルさんが行う、大学紹介のプレゼンテーションに参加しました。アベリスツイス大学は最も国際的な大学 200 に名を連ねているそうで、プレゼンテーションの場には世界中から学生が集まっていて、私の隣の学生はアゼルバイジャンからの留学生でした。日本人も 2 人おられました。レイチェルさんは与謝野町と協定を結んだサマースクール事業の取り組みなどを、パワーポイントを使って紹介されており、今夏のサマースクールに参加した与謝野町の若者たちの写真等もありました（写真が撮れませ

んでした。申し訳ありません）。その後、簡単に大学構内を案内してもらい、海沿いにあるアベリスツイス大学の old college へ行きました。



大学構内でランチ



留学生たちとも交流しました



old college はアベリスツイス大学の最初の校舎で、もともとホテルとして使う予定でしたが、それができず、アベリスツイス大学になったという経緯があるそうです。アベリスツイス大学が 1872 年に設立されたウェールズ初の大学であることから、少なくともそれ以前の建物であり、歴史ある建物であることがわかります。その old college を 1 時間ほど案内していただきました。中はまるでハリー・ポッターの世界のような雰囲気があり、異国の文化と歴史を感じることでできる貴重な時間でした。

15 時 30 分には終了し、それぞれホストステューデントとともにアベリスツイスの街を散策しました。それぞれ 18 時にはステューデント・ヴァレッジに帰り、夕方の歓迎レセプションに向けて準備しました。



old college の外観



記念撮影



old college 内部



old college 内部

③ 歓迎レセプション

ステューデント・ヴァレッジにミニバスで迎えに来ていただき、海沿いのホテルへ。19 時、歓迎レセプションが始まりました（日本のように開会や乾杯といったセレモニーがないので、いつ始まったかははっきりわかりません）。アUELさんやこれまでお世話になった協会の人たち、ホストステューデント、ホストファミリーに加え、2011 年に与謝野町に来られたペンブライス校のドナさんや、アベリスツイス町長、地元選出のイギリス国会議員マーク・ウィリアムスさん等が出席され、和やかな雰囲気ですり料理やお酒をいただきました。

マーク・ウィリアムス氏は会の冒頭に挨拶し退席されました。その後、アウエルさんの進行で、アベリスツイス町長、友好協会代表としてキャロラインさんが挨拶され、続いて、私が町長メッセージを読み上げさせていただきました。内容は以下のとおりです。

この度は与謝野町の高校生を受け入れていただき大変有難うございます。

与謝野町の学生の派遣も今回で12回目となりました。また、与謝野・アベリスツイス友好協会は設立20周年となり、私達は、アベリスツイスの皆様ととても長く交流を続けることが出来ています。

この交流事業に携わっていただいた友好協会の皆様と心から御礼申し上げますとともに、今回のホストファミリーの皆様には特に感謝申し上げます。

この国際交流は戦時中に捕虜となられたフランク・エバンスさんと与謝野町とで始まった、平和のための国際交流です。今回のアベリスツイスでの滞在期間中に、与謝野町の高校生達も、フランク・エバンスさんのお墓を訪れ、献花、黙とうを捧げる予定です。

私は、これは小さなセレモニーですが最も重要なセレモニーである、と思います。

両町の交流の架け橋となられたフランク・エバンスさんに対して、両町の将来を担う若い高校生達が、二度と戦争をしないことを誓うからです。

私達は、フランク・エバンスさんの桜の平和メッセージを理解し、行動しなければなりません。

『咲いているときも、散った後も美しいくら。二度と再び人間が、無残に命を失うことのないように、そして全ての人間が平和のうちに生を全うできますように。エイエン ノ ヘイワ』

私達は、これからもアベリスツイスの皆様と交流を続けたいと思っています。

そしてこの交換によりアベリスツイスと与謝野町の多くの高校生が、お互いを理解し、平和のために活躍されることを願っています。

その後、訪問団は全員自己紹介（高校生はすべて英語で紙を見ずにできました）を行った後、与謝野町から持参しましたお土産や友好協会設立20周年の記念品（クリアファイルとボールペン）を渡しました。お土産は友好協会、ペンウェディグ校、ペングライス校、とアベリスツイス大学（出席されていなかったため後日お渡ししました）にお渡ししました。



国会議員のマーク・ウィリアムス氏



おいしいお料理をいただきながらの交流



☆自己紹介等の様子（私は町長メッセージも読ませていただきました。）



その後、高校生たちが余興としてダンスと書道パフォーマンスを披露しました。最初はダンスです。内田さん、松田さんの男性2人を中心に、三味線のような和の要素のある音を含んだ曲を選んで、ヒップホップダンスを披露しました。女性陣も練習した成果を発揮し、全員が一体となった楽しいダンスとなり、会場が大いに盛り上がりました。その後、堀江さん、三田さんの二人で大きな半紙にメッセージを書く書道パフォーマンスを披露し、

「ほら桜 見上げる空に 強く強く咲いているよ 舞い上がれ花びらよ あなたに届くように 悲しみはいつの日か生きる勇気になる 桜空（←中央）」

というメッセージを力強く書きました。交流事業への思いを表したこのメッセージの意味を、柴田さん、森本さんの二人で説明し、大盛況の中、余興を終えました。完成した作品は谷原さんに英訳してもらい、キャロラインさんが保管してくれています。

高校生たちはホストステューデントたちと談笑したり、記念撮影をするなど、会場で自由な時間を過ごしました。ホストステューデントたちは、書道パフォーマンスのために日本から持ってきた新聞に興味を持ったようで、高校生たちが内容を訳したりするなどの一幕もあり、文化交流もできているようでした。

22時30分頃ステューデント・ヴァレッジに帰着。就寝しました。

☆余興の様子



日本の新聞記事に興味を持ったようです↑

10月29日（土）

この日は土曜日ということもあり、高校生たちは朝からホストファミリーと過ごす1日となり、我々とはずっと別行動になりました。

① 高校生たちの一日

8時にTaMedDaで朝食をとりました。高校生たちは昨夜の歓迎レセプションに気を張っていたためか、咳をしたり喉の痛みが出たりと、ここに来て疲れが現れてきたようです。それでも著しい不調を訴えることはなく、元気に交流事業に取り組んでくれました。

また、前日に訪れたアベリスツイス大学に大きな刺激を受けたようで、「将来サマースクールに参加したい。」という強い決意が芽生えてきました。全員の口からそういった気持ちを聞くことが出来、サマースクールの継続を強く望んでいました。こういった意思表示は交流事業の終了まで続いていました。

10時にホストファミリーに迎えに来てもらい、日中は映画鑑賞やサッカー観戦などをしたようです。日本でまだ公開されていない映画を見て、内容も何となくわかったと言っていました。この日は2グループにわかれて行動していたようで、初めから帰着が少し遅くなると聞いており、高校生たちは22時20分頃全員帰着しました。

② 随行員の一日

私と谷原さんは正午にキャロラインさんに迎えに来てもらい、アベリスツイスのスーパーマーケットでショッピングをしました。明日、フランク・エバンスさんのお墓を訪れる予定であったため、お花を買いました。スーパーマーケットは規模が大きく、ウェールズの食料品などお土産になるようなものを買ったりしました。冷凍食品が充実しているのも特徴だとキャロラインさんが教えてくれました。昨夜の歓迎レセプションで挨拶された国

会議員のマーク・ウィリアムスさんに偶然出会い、談笑しました。国会議員がスーパーで自らパンを買いながら主婦と談笑するという光景はウェールズならではの光景だろうか、それともそんなことしないのが日本ならではの光景だろうかと考えてしまいました。

その後、キャロラインさんにランチに連れて行っていただきました。ごちそうになってばかりなのでお支払いしたい旨を伝えると「NO」と言われました。「あなたたちは大切なお客さんなのだから」ときっぱりと断られました。ランチのあとは野鳥などの自然を多く見ることができる Ynys-hir（？）という施設に連れて行ってもらいました。施設は自然豊かな場所にあり、リスや小鳥を見ることが出来ました。ウェールズの動物はあまり人におびえたりしないようで、間近で見ることが出来ました。手編みのカーディガンが売られており、お土産で買うことにしました。



おいしいランチや美しい自然を満喫しました。

16時30分頃 Machynlleth に到着。ジェイクさんキャロラインさんのお宅で談笑し、ハロウィンを前にたまたまランタンフェスティバルというお祭りをしており、大規模なパレードを見ることが出来ました。その後初めてのフィッシュアンドチップスをごちそうになり、22時20分頃に帰着。就寝しました。



ランタンフェスティバルの様子



フィッシュアンドチップスをいただきました

10月30日（日）

この日はフランク・エバンスさんのお墓を訪れました。訪問団にとっては大切な一日です。

また、この日にサマータイム（3月最終日曜日午前1時～10月最終日曜日午前1時の期間は時計を1時間進めて昼の時間を有効に活用する）が終了しました。日本との時差も8時間から9時間に変わりました。

① フランク・エバンスさんのお墓へ

10時にゲナルト会長が迎えに来られ、近隣の町 Talybont にあるフランク・エバンスさんのお墓を訪れました。ホストステューデントやケレディグさん夫妻、ペングライス校のドナさん夫妻なども立ち会っていただき、フランク・エバンスさんのお墓に献花をして永遠の平和と友好を誓いました。お墓では高校生たちも神妙な面持ちで、この交流事業のきっかけとなったフランク・エバンスさんに思いを寄せているようでした。

その後、フランク・エバンスさんの生家と、近くにある教会を訪れました。教会では日曜日の集会（ミサ？）が行われており、ウェールズ語で賛美歌を歌うなどしました。終了後は参加者と談笑するなど、友好的に迎えていただきました。

その後、高校生たちは我々と別れ、ホストステューデントと行動を共にすることになりました。



フランク・エバンスさんのお墓で永遠の平和と友好を誓いました



フランク・エバンスさんの生家



近くの教会にもご案内いただきました



② 随行員の一曰

この日は日曜日でしたので、我々も休日ということで、ゲナルト会長の自慢 Audi でドライブを楽しみました。まずは Strata Florida Abbey という古く、大きな教会跡に連れて行ってもらいました。ゲナルト会長曰くウェールズにとって、とても重要な場所だということでした。ゲナルド会長は詩を作られるそうで、その場に記されていた四行詩の解説もしてくれました。

昼食（パックランチ）をどこで食べるかということになり、場所を変えて Devil's Bridge Waterfalls という滝のある公園に連れて行ってもらいました。ウェールズにやってきてから 1 週間近くが過ぎ、季節が進み木々も美しく色鮮やかに色づいていました。滝のすぐそばまで行ける遊歩道が整備されており（かなりの勾配でしたが）自然の中でリラックスすることができました。

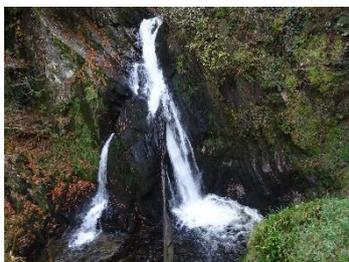
その後、ゲナルト会長のお住まいのある Talybont まで山道を進みました。なだらかな丘陵が重なり合う光景は雄大で、自然の大きさ・美しさに圧倒されました。多くの羊たちやスコットランド種の牛などの珍しい動物たちを間近で見ることができ、とても楽しい時間を過ごすことができました。

16 時過ぎにグェナルト会長のお宅に到着し、居間でゆっくりさせていただくと、グェナルト会長自らエプロン姿で料理をしてくれました。その後、帰宅された奥さんと一緒に食事をいただきました。どの料理もおいしく、私が日本に帰ってから作れるようにと、デザートレシピも手書きで書いてくれました。

20 時 30 分頃にステューデントヴァレッジに送っていただきました。高校生も早く帰着し、就寝しました。



Strata Florida Abbey



Devil's Bridge Waterfalls



グェナルト会長と



スコットランド種の牛



グェナルト会長のお宅で手料理をいただきました



10月31日(月)

ハーフ・ターム (Half term) が終わり、この日からホストステューデントたちは学校に通います。この日は加悦町が贈った桜の木を訪れる予定です。

朝、高校生たちに、アベリスツイスでゆっくり過ごせるのは実質あと2日間だけだと告げると、時間も忘れるくらい楽しいのか、驚いてとても残念そうにしていました。また、この日はアベリスツイスにやってきて以来、初めての晴天となりました。

① ペンウェディグ校訪問

9 時 20 分に迎えが来てペンウェディグ校へ。ペンウェディグ校は secondary school とされる 12 歳～18 歳までの生徒が通う学校で、ウェールズ語を主としている学校です。600 人以上の生徒が通っているそうです。アベリスツイスにある、もう一つの secondary school であるペングライス校は、英語を主とした学校で、1500 人ほどの生徒が通っているそうです。

高校生はホストステューデントに連れられ授業の見学に行き、我々はグェナルト会長の案内で校内を見学させていただきました。音楽室等は一つだけでなく、伝統的なハーブや、パーカッションのような現代的な楽器等が演奏できる部屋など複数に分かれており、生徒たちは自分で作曲するなど、自主的に授業に取り組んでいるようでした。また技術の部屋にはレーザーカッターが設置されているなど、日本の普通の学校にはないような機械が置かれており、生徒たちが作った様々な作品の写真が飾られていました。

☆ペンウェディグ校の様子



② 桜の木の下で

14 時にアベリスツイス図書館（旧町役場）のそばにある、加悦町が贈った桜の木へ集合するということで、12 時にゲナルト会長に送っていただきアベリスツイス市街地へ。集合までの間、我々は自由時間になりましたので、私はアベリスツイスが一望できる高台の丘に向いました。普段はケーブルカーに乗って登るようでしたが、すでに冬期営業となっているようで週末のみの運行だったため、脇道から徒歩で高台に登りました。数少ない快晴の日であったため、汗ばむような陽気のなか、誰もいない丘の上で、美しいアベリスツイスの町並みや広々としたカーディガン湾の風景を楽しむことが出来ました。



滞在中、はじめての（唯一の）快晴。美しいアベリスツイスの町を散策しました

14 時に桜の木へ。ホストステューデントの Efa に連れられてやってきた高校生たちと合流しました。

桜の木の下には加悦町から贈られた桜の木であるとの表示があり、友好の証であることに思いを寄せながら、写真を撮りました。そして高校生は再びペンウェディグ校へ、そのままホストファミリーとハロウィンを楽しみました。



加悦町が贈った桜の木は図書館（旧役場）前の公園の隅にありました

③ 自由時間

15 時頃、我々は再び自由時間をいただき、私は一人で海辺に出て晴れの天気を楽しみました。アベリスツイスに来た初日にアウエルさんが「カーディガン湾に沈む夕日がとても綺麗だよ。」とおっしゃっていたので、夕日が沈むのをじっと待っていました。夕日はアウエルさんがおっしゃるようにとっても美しく、海岸沿いに並ぶ色鮮やかな建物に日があたると、輝くような美しさでした。



暮れゆくアベリスツイスの景色。いつまでも飽きない光景でした。

19 時 15 分にアウエルさん、リラさん夫妻に迎えに来てもらい、海沿いのパブへ。ステーキを注文しましたが、食べきれないほどの大きさに驚きました。21 時過ぎにステューデント・ヴァレッジに帰着。高校生はみんなハロウィンを楽しんだようで 22 時 30 分頃に帰着し、就寝しました。

11 月 1 日（火）

この日がアベリスツイスに滞在する日としては実質最後になります。Primary school の見学と与謝野町から贈った椿を見に行きました。

① ペンウェディグ校から Primary school へ

8 時 30 分にお迎えに来ていただきペンウェディグ校へ。生徒集会の行われている講堂のような場所に通され、生徒の前でそれぞれ自己紹介を行いました。内田君がウェールズ語の「おはよう」である「Bore da」と挨拶すると歓声があがりました。ウェールズ語を主とする学校なので、ウェールズ語に敬意を示したこの行動は賞賛されたようです。高校生たちは、「Bore da（おはよう）」、「Nos da（おやすみ）」、「Sut mae?（元気?）」、「Croeso（ようこそ）」等の簡単なウェールズ語は、教えてもらって使っていました。

その後、徒歩で近くの Primary school に移動し、ホストステューデントが中を案内してくれました。Primary school は 3 歳～11 歳が通う学校で、ホストステューデントたちも卒業生であり、自分の庭の

ように案内してくれました。



ペンウェディグ校の生徒集会



ペンウェディグ校の前で



Primary school の様子



Primary school の様子（ホストステューデントに案内してもらいました）



Primary school の前で

② 与謝野町の椿

一旦ペンウェディグ校へ帰ると、ペンライス校の 3 人の学生が迎えに来てくれ、ミニバスで移動しました。ペンライス校ではホストステューデントの Efa のお母さんのレイチエルさんが音楽の先生として勤めておられ、生徒たちと一緒に校内を案内していただきました。食堂でランチをいただき、与謝野町が 2008 年に贈った椿の木へ。ドナさんが不在だったため、なかなか見つからず、校内を探し回り、校舎の 2 階中庭のような場所で見つけました。そこには特に表示もありませんでしたが、前回訪問時の写真と間違いないか確認し、そこで記念撮影をしました。その後、学生たちに校内を案内してもらいました。



2008 年に与謝野町が贈った椿の木は校舎の中庭にありました

③ 旅の精算

14 時、ゲナルト会長に迎えに来ていただき、ペンウェディグ校へ。図書室にてステューデント・ヴァレッジ

の宿泊費の支払いを行いました。宿泊費は大学ではなく友好協会に支払う形で、宿泊費と朝食のみの支払いとなりました（個人ごとに領収書を発行するには、友好協会に支払う形のほうが良いため）。滞在中の昼食（パックランチ）も友好協会に負担していただき、一人 160 ポンド（2 万円程度）の負担となり、全員に領収書が配布されました。私と谷原さんの分も宿泊費を含む全額を友好協会の負担としていただきました。精算後は図書室でホストスチューデントを待つことになり、その間、高校生たちは折り紙をしたり、メッセージを書いたり最後の夜に向けて思い思いの準備をしていました。

15 時 30 分頃にホストスチューデントが授業を終えたため、高校生はそのままホストファミリーのもとへ。ホストスチューデントの一人 Amy はこの時が最後で、高校生たちと少し早めのお別れをしました。



想いを込めたメッセージなどを準備しました



お世話になった Amy とお別れ

④ 最後の夜

18 時 30 分に私と谷原さんはアベリスツイス大学のギャリーさん、バルさんとともに、ギャリーさんのお家で夕食をごちそうになりました（レイチェルさんのご都合が合わなかったようです）。来年 1 月にバルさんが大学生 8 名を連れて与謝野町を訪れる（ホームステイする）予定であることが告げられました。一方で今回の交流事業に参加した高校生全員が、将来、アベリスツイス大学サマースクールに参加したいと言っていることも伝え、お二人とも喜んでおられました。この時に与謝野町からアベリスツイス大学へのお土産を渡しました。

ギャリーさんの奥さんは香港出身の方で、中華料理をご用意いただき、とてもおいしくいただきました。滞在の最後に日本を少し思い出すような味だったため、明日帰るということをなぜか強く実感しました。

ギャリーさん
と奥さん



バルさん
と谷原さん

随行員の最後の夜は、ギャリーさんのお家でおいしい夕食をいただき、楽しい時間を過ごしました。

11月2日(水)～11月3日(木)

この日はアベリスツイスを離れ、与謝野町へ帰る日です。まだここにいたいという高校生たちにとってはさみしい別れとなりますが、決意新たに再会を誓います。

① 交流の架け橋になる

6時55分、グェナルト会長にミニバスでお迎えに来ていただきアベリスツイス駅へ。滞在中一番の寒い朝になりましたが、友好協会のアウエルさん、リラさん、クレディグさん、ジェイクさん、キャロラインさんとアベリスツイス町長、ホストステューデント（Daniel、Rebecca、Gwen、Cari、Efa）、ホストファミリーが早朝の駅に見送りに来てくれました。前日に見送りに行けなさそうに話していたホストステューデントも顔を見せてくれ、あらためて芽生えた友情の強さを感じました。Efaは私と谷原さんにも、宛名を漢字で書いてくれたメッセージを渡してくれ、この交流事業をととても大切にしてくれていることに感激しました。グェナルト会長とは、来年、与謝野町で再会することを約束しました。

7時30分、バーミンガムに向けた電車がアベリスツイス駅を離れると、長い駅のホームをホストステューデントが走って追いかけてくれました。まるで映画のように、高校生たちはこの10日間に思いを巡らせ、泣いていました。アベリスツイス駅を離れしばらくすると、車窓から見えるウェールズの雄大な自然に一筋の虹がうっすらと架かっていました。与謝野町を出発する時にも阿蘇海に架かっていた虹。内田さんが「交流の架け橋になる」と口にした時、みんなが涙を拭いたように思いました。

ジェイクさん・キャロラインさんがイングランドに入った途中の駅まで同乗して送ってくれました。早朝の出発だったためリラさんが TaMedDa からパックランチを取ってきてくれて、持たせてくれていました。あの大きなサンドイッチを食べるのは最後となり、いよいよ与謝野町を目指すことになりました。



朝のアベリスツイス駅



ホストステューデントも来てくれました



記念撮影



発車5分前



お別れの時



空にうっすらと虹が

② 11月2日移動

10時50分頃、バーミンガムインターナショナルステーションに到着しました。バーミンガム空港に移動後、

搭乗手続きを経て、高校生たちはポンドを使う最後の機会なので買い物を楽しみました。13時30分にバーミンガム空港を出発しました。バーミンガム空港滞時にフリーWiFiを利用してFacebookに移動の様子を投稿しました。

③ 11月3日移動

0時20分（現地時間）にドバイ国際空港に到着しました（気温28℃ 約6時間のフライト）。約3時空港に滞在。写真を見たり、交流事業の思い出を語り合うなどして時間を過ごしていました。3時20分（現地時間）にドバイ国際空港を出発。日本時間16時55分に関西国際空港に到着しました（約8時間のフライト）。飛行機の中で高校生たちはLineなどで同級生から送られた授業のノートの写し等を見ながら、遅れた勉強を取り戻そうとがんばっていました。

関西国際空港には友好協会 山崎副会長と企画財政課小谷係長がお迎えに来ていただいております、両替等の手続きを終えて18時頃関空を出発。19時30分頃に西宮名塩SAで久しぶりの日本食をいただき、21時30分頃に与謝野町役場に到着しました。友好協会 糸井会長、山上副会長、奥野理事長、企画財政課 植田課長と保護者のみなさんにお出迎えいただき、糸井会長からご挨拶いただき、私から謝辞を述べて解散となりました。



ジェイクさん・キャロラインさんが途中の駅まで一緒に来てくれました。



関西国際空港に到着



与謝野町に帰着。多くの方にお出迎えいただきました。

最後に

移動も含めて12日間という期間にわたり、アベリスツイスとの交流事業に従事してまいりましたが、私にとっては何もかもが初めての経験であり、戸惑うことが多かったというのが率直な感想です。何よりも海外への渡航が初めてということで、コミュニケーションの不安を抱えながらアベリスツイスへ向かうことになりました。

しかしながら、アベリスツイスには、とても友好的に私たちを迎え、私の拙い英語に耳を傾けてくれる人たちがいました。滞在期間中はとても親切にいただき、初めてアベリスツイスを訪れる私にも十年來の友達を待っていてくれたかのように接してくれました。これまで両町の間で多くの方々がこの事業に関わってくれたおかげだと感動しました。

フランク・エバンスさんの平和への願いは普遍的な願いとして多くの人々に賛同され共感されるものだと思います。そしてその願いのもとに続く友好関係は、かけがえのないものとして大切にされています。滞在中に取材を受けたS4Cの報道は画期的なものでした。この交流事業が本当に大切な事業としてアベリス

ツイスのみならずウェールズ全土でも紹介され、この交流事業の原点がともに手を取り平和を願うことで多くの人を知ること、なぜ20年を超える長きにわたって両町の人たちが大切にしてきたかを理解することが出来たと思います。

今回の訪問団の高校生たちは交流事業の趣旨を良く理解してくれていたと思います。S4Cの取材を受けた時、歓迎レセプションの時、エバンスさんのお墓を訪れた時、高校生たちは「エバンスさんの思い」「平和への願い」、「多くの人に伝え、継続していきたい。」ということは何度も口にしました。S4Cの取材の際にインタビューで柴田さんが「この大切な友好関係を自分の子どもや孫にも伝えていきたい。」と答えた事は、その場にいた人、特にこの事業を熱心に取材していたインタビュアーの男性を大いに感動させたようでした。この想いをアベリスツイスやウェールズの人々と共有し実現していくという気持ちをこの高校生たちはしっかり持ってこの地にやって来ているのだと、感動しました。時間の都合があり、この日のインタビューに答えたのは3人だけでしたが、他の誰がインタビューを受けても同じ気持ちで答えてくれたものだと思います。また、高校生たちはほとんどの場面で通訳なしでコミュニケーションをとる努力をしました。それは拙いものだったかもしれませんが、熱心に、時にユーモアを交えて取り組む姿勢は、多くの笑顔を生みました。歓迎レセプションで高校生たちが披露した平和や友好への思いは、その場にいた人々に共感され、みんなを笑顔にし、忘れられないものになったと思います。高校生たちが生んだ多くの笑顔が、両町の友好関係を強いものにしてくれたと思います。本当にこの高校生たちが友好の架け橋として交流事業に参加してくれたこと、彼らと一緒にアベリスツイスに来られたことに心から感謝します。この交流事業に真摯に取り組む姿勢が大きな成果を生み、今回の成功に繋がったと思います。

アベリスツイスを訪れ、現地の方々と交流した事は私にとっても大きな財産になりました。アベリスツイスの人たちが示してくれた友情を直に感じられたことはとてもうれしい経験でした。無事に行って帰ってくるという最低限の仕事だけでなく、アベリスツイスの人々と心を通わすことができたことが、私にとっての大きな成果だと言えると思います。高校生たちも、こういった小さな喜びをいくつも積み重ねてホストステューデントとの友情を深めていったのだと思います。与謝野町とアベリスツイスが永い月日をかけて大切に続けてきたこの交流事業に、これからも関わっていけるということに喜びを感じました。

最後に、このような機会を与えてくれた友好協会のみなさんや山添町長、和田副町長、植田課長、小谷係長や不在の際に私の業務を担っていただいた廣野主任や企画財政課のみなさんに感謝します。そして、私自身も与謝野町とアベリスツイスの友好関係がいつまでも続くように、高校生達とともに友好の架け橋になれるように、微力ながら努力していきたいと思っています。

以上



心のこもったプレゼントをいただきました。
ケレディグさんからのプレゼントです。